

談

dan



舞台上マナー実践 「ありがとう」勇気に

愛と浄化の歌を歌いたい④

豊岡厚恵さん

とよおか・あつえ

シャンソン歌手



リサイタルで歌う豊岡厚恵さん。歌っている間も笑顔が絶えない

——講座で改めてマナーを身につけ、接客指導の仕事を始められましたね

豊岡 それも出会いがあったからこそです。企業経営者の勉強会に誘われ、そこで7年間学ばせていただきました。ある社長さんからウチの

会社の社員研修してもらえますんか？と声をかけていただき、そこから今日までなんです

17年間、ありがたいことに仕事がどんどんつながり広がっていきました。そんなある時、ビジョンカウンセリングというのを受けたんです。夢を絵

に描き出していくというものです。35歳だったかな。その時にはっきりと気づかされたんです。18歳の時から封印していた自分の夢を。「私、歌を歌いたかったんだ！」

——カウンセラーとの出会いがなければ、歌手・豊岡厚恵はいなかった

豊岡 ですね。でもステージで歌うのって、単に歌を歌うだけではありませんよね。お客さんと同じ時間を共有する、楽しく過ごしてもらおう。それって、一種のパフォーマンスであり、販売の要素もあり、マナーの実践であるわけです。花博も、百貨店も、マナー研修もすべてはつながっていたんだと思います。たくさんの素晴らしい人たちとの出会いがそれを方向付けてくれたんだと、信じています。だから歌手になれたんだと。

——歌手になってよかった、やはり夢を実現するのはいいもんだと

豊岡 歌って力があると思うんです。誰しも人生のある時に励まされたり、元気づけられたりした歌ってあるでしょう。この歌聞いたらあの頃を思い出す、とか。歌にあるそうした力は、人の心を優しく包んで、時に涙し、浄化してくれる。私の歌を聴きに来

てくれた人が癒やされて優しくなれたり元氣になれたりして、その優しさをまた別の人に届けていたたく。それが私の歌う目的なんです。でも、ある時チケットを売るために一生懸命になっていることに気づきました。そのとき、何のために歌っているのかと目的を見失いそうになりました。私の歌は必要とされていないのか、と。

——なるほど、大きなシレンマですね。特に最初は自分でプロモートして、会場確保して、とか

豊岡 全て自分でやっていたので、本当に大変でした。そんな時、またありがたい出会いがあったんです。初めて私の歌を聴いてくださったという70代の男性のお客さまが近づいてこられ、「ありがとう」っておっしゃるんです。「母に贈るうた」という曲を歌ったのですが、「わたしは母を亡くした時も家内を亡くした時も泣けなかった。でも今、あなたの歌を聴いて初めて母を思って泣けました。ありがとう」って。やっぱり歌には力がある！と、私が励まされた瞬間でした。

——そこにたどり着くまで大変だったでしょう

豊岡 なにしろ「シャンソンってなに？」のままオーディション受けたんですから。——な、なんと！



…continued

聞き手 藤浦淳